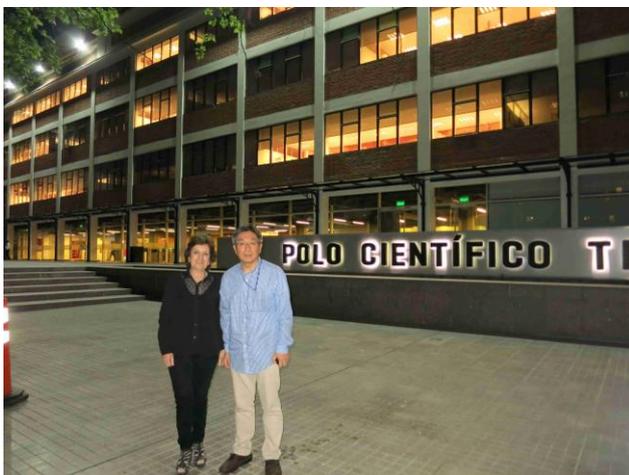


拠点形成研究交流および事業報告：国際学会参加、アルゼンチン拠点 国立乳酸菌研究所 仲川教授、白川准教授がブレノスアイレスにおいて共同研究打ち合わせ を行う

10月15日から22日にアルゼンチンのブレノスアイレスで開催された第21回国際栄養学会議に出席しました。本会議は、4年に一度開催され、今回の会議には世界各地から栄養学、食品学の研究者、およそ3000人が集い、活発な議論がなされました。次回は4年後に、東京で開催の予定であり、このため、今回の会議の参加者の皆様に東京大会への参加を呼びかけました。10月17日には、上の写真にありますように、アルゼンチン側研究拠点である国立乳酸菌研究所 Julio Villena 博士も、東京大会への呼びかけを積極的に手伝って下さいました。この時に、「本事業に関する今後の共同研究の成果を、東京大会での発表へ繋げられれば」と、Julio Villena 博士と誓い合いました。



上記の呼びかけの後に、アルゼンチン国立乳酸菌研究所 Susana Alvarez 教授（拠点代表者）が加わってください（写真左）、さらに本事業に関する打ち合わせを行いました。まず、お互いの研究のバックグラウンドの紹介、現在、進めているプロジェクトについて確認を行いました。続いて、乳酸菌の健康機能性について、同研究者が有している膨大な乳酸菌ライブラリーを我が国の発酵食品に応用する可能性について、討論を行い、より健康機能性の優れた食品開発へ展開する共同研究への道筋を作ることができました。最後に、



両国の最近の学生の気質についても、情報交換が行われ、両国共に次世代のサイエンスを担う人材の確保に対する戦略に共通点があることが判明し、現在、我が国が抱えているいくつかの問題は、グローバルな課題であることを認識することができました。これらを踏まえて、更なる若手研究者の育成のための人事交流の必要性を再確認しました。

今回、このような機会を提供して頂きました、研究拠点形成事業の研究交流支援に感謝いたします。

CFAI 食品評価ユニット 仲川清隆、白川仁